



# *PICTURES AT AN EXHIBITION!*

## *Mizuho Youth Symphonic Band Concert*

'75 8.17(日)2:00 P.M
立川市 市民会館大ホール

主催　瑞穂青少年吹奏楽団



# ごあいさつ

瑞穂青少年吹奏楽団　団長

牟　田　久　寿

本日は皆様方には御多忙の折、当楽団の演奏会に御来場いただきまして誠に有難うございます。

瑞穂青少年吹奏楽団は西多摩の里、人口２万人の町から生れたバンドでメンバーは全員、瑞穂町の町民で構成されております。13才から23才までと45名いますが、平均年令は17才という大変若々しいバンドです。昨年は全日本吹奏楽コンクールに東京代表として出場、はからずも金賞という栄誉を授かったことは私達の最大の喜びでありました。昭和45年バンド結成以来、皆様方の温かい御支援の下に今日まで成長することができました。ここに深く感謝の意を表したいと思います。又、本日は新交響楽団、芥川也寸志先生の御助力により、ここ立川市で“オーケストラと吹奏楽の共演”という画期的なコンサートを開く事になりました。まだまだ私達の力では新響の皆様とステージを共にする事など大変おこがましい事でございますが、新響の皆様方の温かいお心と、深く感謝致します。私達も一生懸命に演奏致しますので皆様も御声援をお願い致します。私達、瑞穂青少年吹奏楽団は微力ながら、三多摩のアマチュア音楽発展のために努力致す所存でございますので今後共、皆様方の御理解と御協力をお願い致します。

# 芥川也寸志と新響

新交響楽団　理事長

戸　田　昌　広



芥川也寸志

芥川也寸志氏は新響の生みの親であり育ての親であり、現在も音楽監督兼常任指揮者として新響と共にあゆんでおります。19年前20名そこそこの音楽愛好者が集まって“プープー”“キーキー”と雑音を出しているアンサンブルに顔を出してしまったのが縁で、以後今日までずうっとその関係が続いてまいりました。

新響は芥川也寸志という有名な人が指揮者になっているけれど、年に何回ぐらい顔を見せるのか？ということを時々聞かれるのですが、年に何回ではなくて毎週１回の定期練習はもちろん臨時にふやす練習や泊り込みで行う合宿練習にも来て譜読みの段階から本番までの総てを自分で面倒みております。これを新響創立以来19年もやって来たのです。まあ時間的にゆとりがありゆうゆう自適の生活をしている人ならいざ知らず大変忙しい毎日の氏が毎週の練習（土曜の夜）のためにやりくりして、時には北海道から大阪から駆けつけることもしばしばです。

何が氏をそうさせるのか、常識的に考えても新響と付き合って損することは色々と具体的に列挙できるけれど、得することと云ったら何だろうと考え込んでしまいます。

オーケストラの指揮が出来るということならば他のプロのオーケストラの指揮をしたりしているのですから何も新響でなくても良いし、ましてアマチュアの技術的にも未熟で、メンバーも定着率が悪く今でこそ100 名余の団員がいて編成がととのっておりますが、ティンパニーもなくコントラバスもないといった頃の事を考えるととてもオーケストラの指揮をするという気分ではなく、たゞたゞ忍耐の連続であったと思います。氏は常に団員の先頭にたってどうしたら新響は素晴しいオーケストラになるか、アマチュアの音楽運動はどうあるべきかと我々団員以上に考え、行動してきました。

単に新響の、アマチュア・オーケストラの指揮者というだけでなく、身も心もドップリとその中につかっているアマチュア音楽運動の指揮者であります。そして私たち団員のようなアマチュアの音楽愛好者よりも、もっともっとアマチュア精神に富んだ音楽家であると思います。

## 第Ⅰ部　　指揮　牟田久寿　　瑞穂青少年吹奏楽団

1．ブロックM（Mills 版）　　J.H. ビリック
2．アラモ（Elkan-Vogel 版）　　R.ジェイガー
3．愛のテーマ（Yamaha 版）　　B.ホワイト
　　岩井直溥編
4．愛は誰の手に（Yamaha 版）　　N.ロータ
　　岩井直溥編
5．「南太平洋」よりハイライト（Chappell 版）　　R.ロジャース
　　P.J.ラング 編

## 第Ⅱ部　　指揮　芥川也寸志　　新交響楽団

★ ラテン　アメリカン　シンフォニエッタ　　M.グールド

## 第Ⅲ部　　指揮　芥川也寸志　　新交響楽団
瑞穂青少年吹奏楽団

★ 組曲「展覧会の絵」　　M.ムソルグスキー

プロムナード
1．こびと
プロムナード
2．古城
プロムナード
3．テュルリーの庭にて
4．ビドロ
プロムナード
5．殻を出きらないでいる雛の踊り
6．サミュミル・ゴールデンベルクとシュミィレ
7．リモージュの市場
8．カタコンブ
9．ババ・ヤーガの小屋
10．キエフの大門

## Part I

Mizuho Youth Symphonic Band
Conducted by Mr. Hisatoshi Muta

1. Block M — J. H. Bilik
2. The Alamo — R. Jager
3. Love's Theme — B. White
   arr by N. Iwai
4. Godfather Part II — N. Rota
   arr by N. Iwai
5. Highlights From 'South Pacific' — R. Robgers
   arr by P.J. Lang

## Part II

Shin Symphony Orchestra
Conducted by Mr. Yasushi Akutagawa

★ Latin American Symphonietta — M. Gould

## Part III

Shin Symphony Orchestra: Mizuho Youth Symphonic Band
Conducted by Mr. Yasushi Akutagawa

★ Suite 'Pictures at an Exhibition — Mussorgsky

Promenade
1. Gnomus
Promenade
2. The Old Castle
Promenade
3. Tuileries
4. Bydlo
Promenade
5. Ballet of the Unhatched Chickens
6. Samuel Goldenberg and Schmuyle
7. The Market place at Limoges
8. Catacombs
Com Mortuis in Lingua Mortua
9. Hut of the Baba-Yaga
10. The Great Gate of Kiev

# 組曲「展覧会の絵」

M ムソルグスキー

ロシア五人組の偉才モデスト・ムソルグスキー(1839—1881)が、ピアノの為の組曲「展覧会の絵」を作曲したのは、1874年、彼35才のときです。この曲は彼の親友であった画家ハルトマンを偶んで描かれたもので、いずれもハルトマンの作品から得たインスピレーションがもとになっています。原曲はピアノ曲ですが、これを近代フランスの作曲家モーリス・ラベルが管弦楽用に編曲して一躍有名になりました。ロシアの土くさい壮大な雰囲気と近代管弦楽法の大家ラベルの色彩豊かなオーケストレーションとが相まって見事な作品を作り上げました。全曲は次の様な小品から出来ており、つづけて演奏されます。
「プロムナード」そぞろ歩きと名付けられており、展覧会場を歩いたり、立止まったり、考えたりする人達が描かれています。

1. *Gnomus* こびと

ロシア伝説に出てくる地底に住んで、ガニ股のこびとの姿を彫んだクリスマス・ツリーの飾りにするくるみ割り人形をデザインしたもの。

2. *The Old Castle* 古城

イタリアの古城を描いたスケッチによったもの。

3. *Tuileries* チュルリーの庭にて

パリのルーヴル博物館の前にあるテュルリー公園を行きかう人々の会話喚声をあげて遊びまわっている子供たちの姿。

4. *Bydlo* ビドロ

ポーランド農村の牛車を描いた絵。

5. *Ballet of the Unhatched Chickens* 殻を出きらないでいる雛の踊り

1871年ハルトマンはマリウス・プティパが演出したバレエ“トリルビー”のための美術を担当した。その衣裳デザインの一枚にある胴に卵の殻をつけた雛鳥の姿をした踊り子を描いたスケッチをもとにした曲。

6. *Samuel Goldenberg and Schmuyle* サミュエル・ゴールデンベルクとシュミイレ

別に“２人のポーランドのユダヤ人”というタイトルをもっている。偉丈高になっている金持ちと金切声をあげて抗弁している貧乏人。最後に金持ちの大喝一声で終わる。

7. *The Market Place at Limoges* リモージュの市場

フランスの中部山岳地方にある町リモージュの市場で買物にきたおかみさんたちがペチャペチャとお喋りをしている。

8. *Catacombs* カタコンブ

ローマ帝国の支配下にあった時代のパリの地下墓をハルトマン自身がランタンをかざして調べているという絵である。

9. *Hut of the Baba-Yaga* ババ・ヤーガの小屋

別に“鶏の脚の恰好をした小屋”という題もある。ロシアの伝説に出てくる妖婆の棲み家だがハルトマンはそのグロテスクな恰好の小屋をあしらった置時計のデザインをのこした。

10. *The Grate Gate of Kiev* キエフの大門

キエフが新しい都市を建設しようという計画をたてたときハルトマンがかいた６枚の設計図のひとつで、３つのアーチをつられた恰好をなしそのひとつに、かぶと型の根をもった鐘楼が高くそびえているというデザインであった。結局この城門は実現せず、その設計図のスケッチから書きあげられたムソルグスキーの音楽によって後世に伝わる生命を得たといえる。




## アラモ

ロバート・ジエイガー

テキサスの有名なアラモ砦の戦いを描いた、この“アラモ”は3月に来日したアメリカの作曲家ロバート・ジエイガーの作品です。瑞穂青少年吹奏楽団がジエイガーの作品をとりあげるのは“シンフォニア・ノビリッシマ”“吹奏楽の為の交響曲”についでこれで3曲目です。
前の2曲はコンクール初参加以来、自由曲としてとりあげ優秀な演奏と高く評価されました。(金賞受賞)　　このアラモは昭和46年度瑞穂中ブラスバンド部卒業記念演奏会で演奏されております。

## 愛のテーマ

バリー・ホワイト
岩井直溥　編

バリー・ホワイトとラブ・アンリミテッドオーケストラの演奏で大ヒットしたソウル・ミュージック“愛のテーマ”2小節単位でくり返されるシンコペーションのリズミカルなフレーズにのって木管楽器がストリングス風なメロディーをたっぷりとのびやかにうたいます。

(ヤマハ ニュー サウンズ イン ブラスシリーズ)

## 愛は誰の手に

ニーノ・ロータ
岩井直溥編

日本映画興行記録上でも大ロングランを放った“ゴッド・ファーザー”の第2部のテーマ音楽です。主人公がイタリア移民ということから、シシリー風の哀愁を秘めた美しいメロディーをもっています。トランペットソロ用として編曲されており、本日は*Ist Trp.*の田辺尚雄が美しい音色をお聞かせします。

ポップス・アレンジの第一人者岩井直溥氏の編曲ですので「愛のテーマ」同様充分楽しんで戴けることと思います。

(ヤマハ ニュー サウンド イン ブラスシリーズ)

## 第Ⅱ部　　指揮　芥川也寸志　　新交響楽団

Part Ⅱ　ワルツ王　ヨハン・シュトラウスⅡ世の作品を集めて（生誕150年記念）

Johann Strauss（Son）

1.「こうもり」序曲
Overture to "Die Fledermaus"

2.「おしゃべり」ポルカ（トリッチ・トラッチ・ポルカ）作品214

3. 円舞曲「ウィーンの森の物語」　作品325
"Geschichen aus dem Wienerwald" Walzer Op.325

4. ポルカ「狩」　作品373
"Auf der Jagd" Polka Op.373

## —曲目解説—

**ヨハン・シュトラウス篇**

一、「ワルツの父」と「ワルツの王」

周知のとおり、ヨハン・シュトラウスといえば「ワルツ王」として世界的にその名を知られています。しかしワルツの作曲家としてのヨハン・シュトラウスは二人いて、その二人とは父子の関係であり、我々が身近に接することのできるワルツの作者は息子の方です。今日演奏されるものもすべて息子の作品です。父シュトラウスは「ワルツの父」と称され、息子シュトラウスは「ワルツの王」ということなのです。つまり、北部オーストリアのレントラーという田舎舞曲を今日のワルツという形に仕上げたのは父シュトラウスであり、その基礎の上に、それをさらに洗練させてクラシック音楽の一分野に高めたのが息子ヨハン・シュトラウスだったのです。

二、ヨハン・シュトラウス

「ワルツ王」と称される息子のシュトラウスは１８２５年にウィーンで生まれ、１８９９年に亡くなるまで数々のワルツやポルカを作曲し、当時のヨーロッパの軽音楽界を席巻しました。

「ワルツ王」シュトラウスは「ワルツの父」シュトラウスの長男であり、その下にヨーゼフとエドゥワルドがいますが、彼らは二人ともやはりワルツの指揮者や作曲家になっています。音楽家の家系としてはバッハ一族が有名ですが、シュトラウス一家も音楽家として名を成しているのです。なお、「ワルツ王」はワルツを踊れなかったと伝えられています。

三、作品紹介

**1.「こうもり」序曲**

１８７４年にウィーンで初演された「こうもり」は１８７３年の暮にわずか6週間で書きあげられました。このオペレッタにはやはりウィンナ・ワルツがふんだんに使われています。このオペレッタの内容は、仮装舞踏会のこうもりの衣裳のまま道ばたで寝込んでしまったため、友人のいたずら気で「こうもり博士」というあだ名をつけられてしまったファルケ博士がその友人に陽気な仇討ちをするというものです。序曲はシャンペンの栓を抜く威勢のよい和音で始まり、感傷性ももたせた佳品です。

**2.「トリッチ・トラッチポルカ」**

シュトラウスが作曲した数あるポルカの中でも「トリッチ・トラッチポルカ」は比較的よく演奏されます。ポルカとは１８３０年頃ボヘミアに生まれた2拍子の民俗舞曲で、急速に全ヨーロッパに広まり、各地のサロンで踊られるようになりました。シュトラウスの作品もそうしたものの一つです。なお「トリッチ・トラッチ」とは「女房たちが、お楽しみのおしゃべりをすること」の意味です。

**3.「ウィーンの森の物語」**

この作品はシュトラウスの傑作の一つであり、代表的なウィンナ・ワルツです。作曲者が４３才の時にわずか一週間足らずで完成されました。「ウィーンの森」にさえずる小鳥達の声などウィーン近効の風景をハンガリーの民族楽器であるツィターを用いて表現しており、描写音楽としても、優れたものであるといえるでしょう。

**4. ポルカ「狩」**

この作品は馬にのって疾走しながらの狩をポルカに表わしたもので、鉄砲をうつ音も取り入れられたユーモラスな曲です。